

リレー連載生ヒストリー—温故知新  
第12回 前田喜美子さん（54期）

いつになっても、ご時世が大きく変わっても、人それぞれ昔の思い出は懐かしく心に残るものでしょう。まだ若くて、おおいに活躍をしている頃はさほどでなくても、歳を重ねるにつけ、ふと学生時代の出来事を思い出すことが多くなるのは、皆さんも経験がおありのことと思います。不思議なのは、学生の頃の友達は、いつ会っても、ご無沙汰していた時間が長くてもすぐ昔の気持ちに戻ってしまうことでしょう。54期はよく同窓会を開いていました。そんな折は皆さん歳を忘れて、楽しい一時を過ごしたものです。

私は1963年から、2000年までの長い間、海外で生活していました。帰国早々、同期の石井さんから、鉄人の料理人のお食事処にお誘いがあり、喜んで参上しました。「君は海外での生活が長く、同窓会に何の貢献もしていないから、少しは何かしてはどうか？」とのお言葉に、私はなるほどと同感で、浦島太郎状態で、短慮ゆえ会長役をお引き受けしました。その間、会議がある度に、54期の方々が何人か出席して下さるので、皆さんにお会いできて、ルンルン気分でした。その中には、今はいらっしゃらない方もいらして、思い出す度に涙が浮かびます。後からきいたのですが、私が何時もの様に何か失敗するのではないかと心配でいらして下さったと聞き、いたく感激しました。当時6月の関東同窓会総会では、若い同窓生、特に在学中の可愛い若者達が出席して、お会いできるのは、わが身を振り返って感無量でした。年寄りになれば、若い人達から不思議と学ぶことがたくさんあり、孫の年の学生さんの音楽の演奏を聴けば、将来が待ちどうしい気がします。最近ネットの便利さ、テクノロジーの発展の早さ、先日耳にした空想世界の開発メタバースなど、これからも知らない世界がまだまだあるときくにつけ、楽しみが益々増えます。

違う年代の人々とのふれあいは知らないことに出会う絶好のチャンスです。そして後日、良き思い出にもなりますから、お忙しい中、万難を排して 全体の同窓会にご出席されます様に強くお勧めする次第です。東京で開催されます同窓会の一つに女子会があります。コロナ禍で、この2年ほどお集まりはしていませんが、お世話されている方々が趣向を凝らしていろいろなジャンルの催しごともあり、皆さんとお昼ご飯を頂いたり、それぞれの近況をお話される楽しい行事です。ホームページで”女性同窓生交流エッセイ”も始まったと聞き大変うれしく思っています。

最後になりますが、総会のみならず、一年通して同窓会のお世話をされる方々は、非常に大変だと思い、ホームページ等々、ご連絡を頂く度に感謝しております。お忙しい中、時間を割いてくださる方々がいらっしゃらなければ同窓会は存在しないのですから、目立たない大変な世話をされていて下さいます役員の皆様にご苦労様ですと感謝を申し上げて私からのメッセージとさせていただきます。